

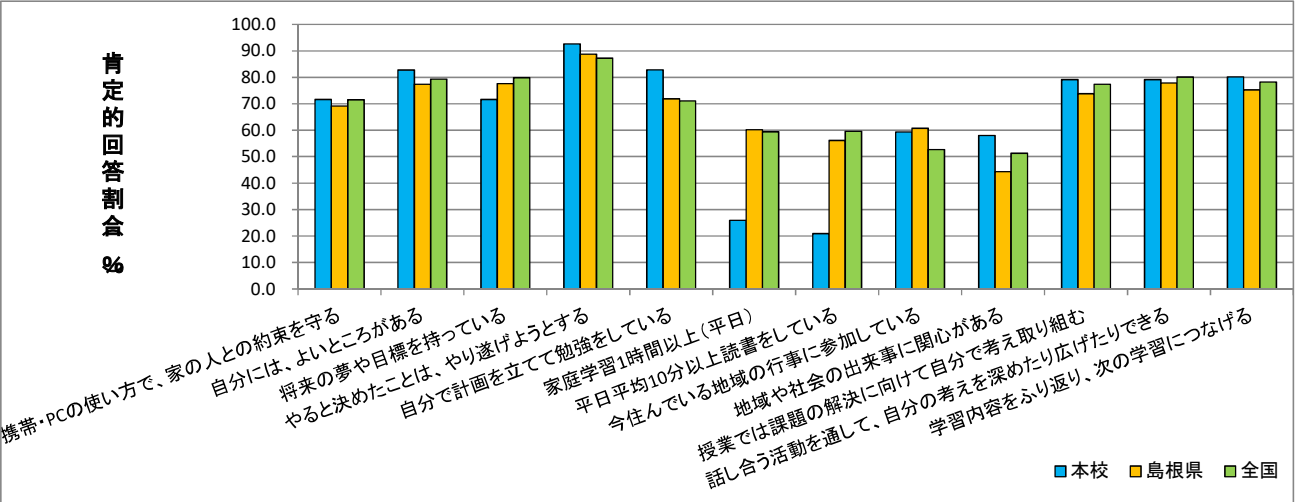
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○対話力のスキルアップや、対話により考えを深めていく授業を行うことを通して、互いの立場や考えを大切にしながらも、自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力が育ってきている。 ●文章全体の構成を考えたり、自分の文章のよいところを見つけたりする力が十分でない。	・自分で書いた文章を読み返し整える習慣をつけていく。 ・さまざまな観点で互いの文章を読み合い、感想や意見を伝える場を持つことで、他者の文章のよいところを取り入れたり、自分の文章のよいところを見つけたりできるようにする。
算数	○毎月計算会を行うことで、目的に応じて数量の関係に着目して数の処理をする力が育ってきている。 ●割合についての理解が十分でない。 ●図形の性質を理解し、構成の仕方について考え、作図の仕方を判断したり筋道を立てて説明したりする力が十分でない。	・学習問題と日常の具体的な場面を対応させながら、生活経験を思い起こし、学習内容が理解できるように授業を改善する。 ・図形の意味や性質を基に構成の仕方について考える場を十分に持ち、作図の仕方を筋道を立てて説明できるようにしていく。
理科	○実験・観察を丁寧に繰り返し行うことで、正しい器具の扱い方や自然現象の意味理解ができるようになった。 ●実験結果から得られた情報を分析し、解釈して自分の考えをもつことができるが、実験結果から得られた情報が予想と違うとき、情報を分析、解釈して、見直しをもって考える力が十分でない。	・学習問題の解決に向かう際、帰納的思考や演繹的思考ができるように、ノートの表現方法や話し合いの仕方の工夫をしていく。またこのことにより、自分の考えを見直す力を育てていく。加えて、理科への関心を高めるために、生活に結び付いた教材を用意して実験をしていくようにする。

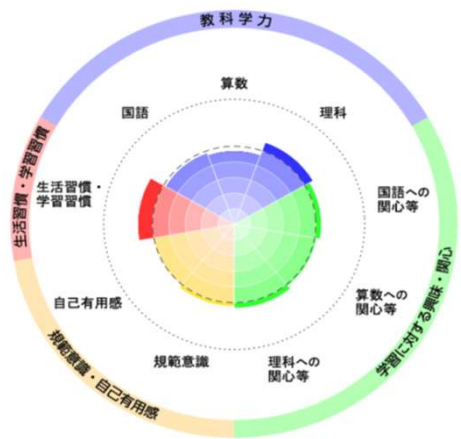
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自分のよさを感じていて、自分で決めたことはやり抜いたり、学習に意欲的に取り組んだりする前向きな姿勢がある。 ●家庭学習70分を目標として、取り組み方など示しているが、十分に組み込まれていない。 ●家庭での読書の時間が確保されていない。	・家庭学習については、配布した手引きを基に、指導を重ねていく。また、メディアコントロールや自学ノートの評価などを継続し、望ましい家庭学習の取り組み方を身に付けていけるようにする。 ・家庭読書の時間を低学年のうちから設定し、親子で読書を楽しむ時間をつくることで、読書の習慣化を図る。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・将来への希望をもち、目標を適切に設定して、伸びていく自分を実感できるように、生活の中でめあてや振り返りを重ねながら、行事への参加等で変革していく自己が見つめられるようにする。
・今年度から取り組んでいる低学年からの家庭読書の時間の確保やその取り組み方の工夫を継続して、読書に親しみをもち、楽しさを感じられるようにする。
・全員が授業へ参加し、対話により思考が深められる授業を行っていくことで、考える楽しさを感じ、学習に意欲的に取り組んでいけるようにする。

【受検者数】
81 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。